

和歌山県みなべ町の 紀州備長炭の技術継承に関する調査活動と提案



模型を用いたワークショップ

#技術伝承
#森づくり
#コミュニティ拠点

DATA

- **主な連携先・メンバー**
みなべ町役場／みなべ川森林組合／みなべ町備長炭生産者組合／株式会社オンデザインパートナーズ 鶴田爽氏／グッスリ・アーキテツ株式会社 三原一哲氏
- **活動地域**
和歌山県日高郡みなべ町
- **活動期間**
2022 年度～継続中
- **活動資金**
みなべ町受託研究／地域連携活動に対する補助事業

目的

みなべ町役場がリニューアルを予定している紀州備長炭振興館の展示内容および展示レイアウトを、学生が企画するワークショップを通して提案することを目的としている。

活動内容

- ・紀州備長炭生産に関する資料収集やヒアリング調査

紀州備長炭の生産者に対して、これまでの紀州備長炭の生産の経緯や現在の森林管理の取組みや課題、技術伝承についてヒアリングを行った。また、Uターン移住者の製炭者に対しても今後どのように紀州備長炭の技術を伝承していくか議論を行った。

- ・森林管理について現地調査

現在は据え付けの窯で製炭されているが、以前は資源のある森林へ窯を移動させて製炭し、森づくりも製炭者が担っていた。分業が進み森づくりまで行う製炭者が減少する中で、森づくりから炭作り

連携にいたる経緯

紀州備長炭は生産者によって森づくりから炭作りまで行われてきたが、多量生産と効率化のために分業化が進み、森林管理や品質保持が難しくなっている。技術伝承のため VR 動画や森林管理に関する調査結果をどのように展示していくか、ステークホルダーとワークショップ形式で構想を練る中で連携するに至った。

まで一貫して行っている製炭者を対象に、窯を移動させていた頃の森づくりや窯づくりについてインタビューを行い、実際に移動窯がどこにあったのか、どの範囲の森林を製炭者で管理していたのか、地図を用いてプロット作業を行った。将来的には、移動窯を用いたトレッキングツアーも観光イベントとして提案・実施を予定している。

- ・展示レイアウト検討（模型製作）

上記のヒアリング、インタビュー、森林管理の現地調査結果を振興館でどのような展示を行うべきかワークショップを開催し、模型を用いてレイアウト案を検討した。



移動窯の現地調査

炭焼きの生活体験



振興館の視察

活動の成果

- ≫ 紀州備長炭に関する現地調査のまとめ：ヒアリングやトレッキングの内容をまとめて展示提案。
- ≫ ワークショップ：森林組合・みなべ町役場・製炭者と振興館のリニューアルについて議論・検討。
- ≫ 展示レイアウト提案：振興館の模型を製作、関係者へのヒアリングを通して展示レイアウトを提案。

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 地域拠点形成に向けたワークショップの開催。
- ≫ VR など先端技術を用いた伝統技術継承。
- ≫ ワークショップなどを用いた参加型まちづくり。

連携先からの一言

研究室は紀州備長炭や製炭技術・文化について丁寧に調査を行い、それをもとに工夫を凝らした展示方法を提案してくれました。情報発信や地域活動の拠点として、これまで以上に親しまれる施設になると思います。

(みなべ町役場)

環境都市工学部 助教 宮地 茉莉 Miyaji Mari



国内外においてエンジニアが介入しないセルフビルド建築に関する調査・実践研究に取り組み、日本全国で竹資源を用いた農業ハウス（Bamboo Green-House）の普及活動・製作指導も行なっている。

